

株式会社資生堂 2013年度

第1四半期実績
および見通し

当資料の記載内容のうち、歴史的事実でないものは、資生堂の将来に関する見通しおよび計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは、記載の見通しとは異なる可能性があります。

- これより、2013年度第1四半期実績と
上期・年間の見通しについてご説明します。

1

2013年度 第1四半期実績 要約

(億円)	実	績	前	年	比	外	貨	前	年	比	前	年	差
売 上 高	1,624				+8.6%					+0.7%			+129
国 内	822				+0.1%					+0.0%			+1
海 外	802				+19.0%					+1.5%			+128
営 業 利 益	69				(△30)					—			+99
経 常 利 益	76				(△27)					—			+103
四半期純利益	27				(△13)					—			+39

() 内は前年実績

- 海外売上比率 49.4% (+4.3pp)
- 営業利益率 4.2% (+6.2pp)
- 為替レート ドル=92.4円(+17%)、ユーロ=122.0円(+17%)、
中国元=14.9円(+18%)

- 第1四半期の売上高は、前年比+8.6%の1,624億円。国内は消費マインドが回復傾向に向かう中、前年比+0.1%と前年実績を確保。海外は、欧州やベアエッセンシャル社の苦戦はあったものの、中国事業が2桁成長したことから、現地通貨ベースで+1.5%、円安により、円ベースでは前年比+19%となりました。
- 営業利益は、前年から99億円増益の69億円。国内では、賞与および年金費用などの人件費減、コスト構造改革による経費減に加えて、費用の一部が第2四半期へ繰り下がりました。また、海外では中国での差益増や各地域におけるマーケティングコストの効率運用が寄与しました。
- 経常利益は、営業増益に加え、円安に伴う外貨建資産の評価益により、前年に対し103億円増益の76億円。四半期純利益は、39億円増益の27億円となりました。

2

売上高 報告セグメント別

SHISEIDO

(億円)	14/3期 第1四半期		13/3期 第1四半期		前年比	外貨 前年比
		構成比		構成比		
国内化粧品	758	46.7%	755	50.5%	+0.4%	+0.4%
グローバル	843	51.9%	717	48.0%	+17.5%	+0.9%
そ の 他	22	1.4%	22	1.5%	+1.7%	+1.7%
合 計	1,624	100%	1,494	100%	+8.6%	+0.7%

● 次に、報告セグメント別の売上です。
国内化粧品事業は、前年比+0.4%、
グローバル事業は、円ベースで+17.5%、
現地通貨ベースで+0.9%となりました。
詳細は、後ほどご説明いたします。

● その他の事業は、フーズ商品の好調などにより、
1.7%の増収となりました。

3

売上高 報告セグメント別 国内化粧品

SHISEIDO

(億円)	14/3期 第1四半期		13/3期 第1四半期		前年差	前年比
		構成比		構成比		
カウンセリング	364	22.5%	360	24.1%	+4	+1.2%
セ ル フ	187	11.5%	196	13.1%	△9	△4.6%
トイ レ タ リー	93	5.7%	88	5.9%	+5	+5.5%
化 粧 品	645	39.7%	645	43.1%	+0	+0.0%
ヘ ル ス ケ ア	38	2.3%	33	2.2%	+4	+13.5%
そ の 他	76	4.7%	77	5.2%	△1	△1.9%
国 内 化 粧 品	758	46.7%	755	50.5%	+3	+0.4%

● 国内化粧品事業売上の内訳です。

● カウンセリングは、「マキアージュ」や
「エリクシル」とともに、グローバルブランド
「SHISEIDO」が貢献し、1.2%の増収。

● セルフは、「スペシャルジェルクリーム」が
牽引した「アクアレーベル」が引き続き好調な
実績を収めたものの、「エージープラス」や
「アネッサ」などの夏物商材が、前期に先行して
品揃えを推進したため、当期の出荷には
マイナスとなり、4.6%の減収。

● トイレタリーは、「TSUBAKI」や「専科」に加え、
次世代型化粧下地
「フルメーク ウォッシュャブルベース」の好調により、
5.5%の増収。

● ヘルスケアは、コンビニエンスストアやGMSを
中心に、6月に発売した美肌ドリンク
「綺麗のススメ」のゼリータイプが非常に好調で、
13.5%の増収。

● この結果、国内化粧品事業全体では758億円、
0.4%の増収となりました。

4

売上高 報告セグメント別 グローバル

SHISEIDO

(億円)	14/3期 第1四半期		13/3期 第1四半期		前年差	前年比	外貨 前年比
		構成比		構成比			
化粧品	737	45.4%	623	41.7%	+114	+18.3%	+0.8%
プロフェッショナル	105	6.5%	94	6.3%	+11	+12.1%	+1.5%
グローバル	843	51.9%	717	48.0%	+126	+17.5%	+0.9%

- 次にグローバル事業です。
現地通貨ベースで、0.9%の増収となりました。
- 化粧品は、中国事業が牽引し、0.8%の増収。
- プロフェッショナルは、国内で「ザ・ヘアケア」ブランドの継続育成を進めたこと、海外で米国ZOTOS社が堅調に推移したことなどから、1.5%の増収となりました。

5

売上高 地域別

SHISEIDO

(億円)	14/3期 第1四半期		13/3期 第1四半期		前年差	前年比	外貨 前年比
		構成比		構成比			
日本	822	50.6%	821	54.9%	+1	+0.1%	+0.0%
米州	255	15.7%	222	14.8%	+33	+14.8%	△1.5%
欧州	216	13.3%	191	12.8%	+25	+13.1%	△3.5%
アジア・オセアニア	332	20.4%	261	17.5%	+70	+27.0%	+7.7%
海外計	802	49.4%	674	45.1%	+128	+19.0%	+1.5%
合計	1,624	100%	1,494	100%	+129	+8.6%	+0.7%

- 売上を地域別に見ますと、
米州は 現地通貨ベースで1.5%の減収。
グローバルブランド「SHISEIDO」、「NARS」が堅調だったものの、ベアエッセンシャルが1桁半ばのマイナスとなったことが影響しました。
- 欧州は3.5%の減収。
景気減速の影響を受け、イタリアやスペインで減収となったことに加え、主力のフレグランス事業が苦戦しました。
- アジア・オセアニアは、7.7%の増収。
最重点市場の中国において、春節に向けた品揃え時期のズレによるプラス影響もあり、2桁成長となったことが大きな要因です。
- 以上が、第1四半期実績のポイントとなります。

6

2013年度 重点集中領域

SHISEIDO

1

店頭売上が持ち直し基調にある
日本

2

極めて厳しい状況からは脱却した
中国

3

長期計画を見直し、再成長に向けて投資を強化する
米国 ペアエッセシャル

- 次に、2013年度の3つの重点集中領域、「日本」、「中国」、「米国 ペアエッセシャル」における取り組みについて、ご説明いたします。

7

今後の主な取り組み(日本)

SHISEIDO

デパート

専門店



グローバルブランド
「SHISEIDO」

「クレ・ド・ポー ポーテ」

「ベネフィーク」

TV宣伝の投入

8月21日より
メーキャップの新製品を発売

「iPad」を通じた、ビューティーコンサルタントのカウンセリング力の強化

- はじめに、日本です。
- 当社の第1四半期の店頭売上は0～+1%と堅調に推移しており、消費マインドが引き続き回復傾向にある中、今後もプレステージ領域のグローバルブランド「SHISEIDO」、「クレ・ド・ポー ポーテ」、「ベネフィーク」を強化してまいります。
- グローバルブランド「SHISEIDO」では、ブランド初のTV宣伝を5月からメーキャップラインに投入したことで、デパートにおいて新規のお客さまが増加するなど、成果を上げており、8月には「クレ・ド・ポー ポーテ」においても初めてTV宣伝を投入してまいります。
- また、「ベネフィーク」では、8月21日より、リキッドファンデーションと口紅を発売します。「ベネフィーク」のメーキャップラインは、本年2月に発売した「アイラッシュ(つけまつげ)」や「マスカラ」が大変好調な実績で推移しており、スキンケアとともにメーキャップでも売上の拡大を狙います。
- そして、プレステージ領域全般において、6月に全ビューティーコンサルタントに配布した「iPad」を通じて、ビジュアルによる新製品などの商品情報の提供や「メーキャップシミュレーター」を活用するなど、カウンセリング力を強化してまいります。

8

今後の主な取り組み(日本)

SHISEIDO

組織流通(ドラッグストア・GMS)



7/21
発売



「トゥールールージュ」 「トゥールーアイシャドー」

8/21
発売

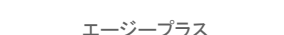


「トゥールーリキッドモイスチャーUV」 「トゥールーチーク」

マキアージュ



エリクシール



エージープラス

- 次に、組織流通を中心とした取り組みです。
- 第1四半期は、「マキアージュ」では「トゥールーパウダリーファンデーション」、「エリクシール」では「デーケアレボリューション」の継続育成に取り組み、両ブランドともに前年を上回る店頭売上を計上しました。
- また、夏物商材として、早期に売り場作りを進め、スペースを確保した「アネッサ」や「エージープラス」、「シーブリーズ」の店頭売上も、猛暑効果が加わり、大変好調に推移しています。
- 第2四半期に入り、「マキアージュ」からは、「アイシャドー」と「口紅」の新色、そして競争の激しいファンデーション市場に向けては、前期に発売した「パウダリーファンデーション」に加えて、リキッドタイプを投入するなど、強力な新製品を発売し、店頭売上拡大につなげます。

9

今後の主な取り組み(中国)

SHISEIDO

「沿岸部の大都市圏」および「中国生産の現地ブランド」の集中強化



デパート AUPRES

新美容機器の活用を通じた
カウンセリング活動の強化



専門店 urara

世界で初めて、D-アミノ酸の
最新研究知見を活用した
抗老化スキンケアラインの
リニューアル

- 次に、中国です。反日感情影響が残る、厳しい市場環境の中、2013年度は沿岸部の大都市圏に集中して、中国生産の現地ブランドである「オプレ」と「ウララ」を強化しています。
- 6月末に終了した上期では、これら2つのブランドの売上は、店頭ベースで改善傾向にあり、今後も店頭整備とビューティーコンサルタントの応対力向上を中心とする活動を進めます。「オプレ」では、新美容機器の活用を通じたカウンセリング活動の強化、「ウララ」では、世界で初めてD-アミノ酸の最新研究知見を応用した抗老化スキンケアラインのリニューアルなどを通じて、売上の拡大につなげます。
- なお、中国の第1四半期売上は、春節に向けた品揃え時期のズレによるプラス影響もあり、2桁成長となりましたが、第2四半期は、市場在庫の水準を下げるべく出荷を抑制したことなどから、上期合計の売上は、ほぼ計画どおり1桁半ばのマイナスとなる見込みです。

10

今後の主な取り組み(ベアエッセンシャル)

SHISEIDO

ダイレクトとリテール事業の相乗効果発揮



北米ダイレクト事業
「QVC」「インフォーマー
シャル」の再強化

北米リテール事業
「既存店舗」の
強化を優先

海外事業
「英国」「日本」の
集中強化

- 次に、ベアエッセンシャルです。
- 2013年度は、不採算直営店舗の閉鎖等の構造改革を進めるとともに、再成長に向けて、本来の強みである「ダイレクトとリテール事業の相乗効果」を高めるべく、QVCやインフォーマーシャルの強化に加え、リテール事業では、店頭マーケティングへ投資をシフトし、既存店舗の強化に最優先に取り組んでいます。
- なお、成長性の回復に向けてビジネス基盤の再構築を進めているため、上期は減収となりますが、ほぼ計画通りの売上を確保できる見込みです。

11

2013年度 上期見通し

SHISEIDO

(億円)	見 通 し	前 年 比	外 貨 前 年 比	4/26公表差
売 上 高	3,600	+7.9%	△0.2%	+170
国 内	1,870	+0.2%	+0.2%	±0
海 外	1,730	+17.7%	△0.8%	+170
営 業 利 益	150	+79.8%	—	+30
経 常 利 益	150	+79.6%	—	+30
純 利 益	70	+39.4%	—	+10

()内は前年実績

- 海外売上比率 48.1% (+4.0pp)
- 営業利益率 4.2% (+1.7pp)
- 為替レート ドル=96円(+20%)、ユーロ=126円(+21%)、中国元=15.5円(+22%)

- 次に、上期見通しです。
売上高は前年に対し7.9%増収、現地通貨ベースで0.2%減収の3,600億円の見通しです。期初計画から170億円上方修正しました。
国内は0.2%の増収と変更はありませんが、海外は為替水準を中心に見直しました。
円ベースでは17.7%増収、現地通貨ベースで0.8%の減収となります。
- 営業利益は、為替影響に加え、下期への費用の繰り下がりも踏まえ、期初計画から30億円プラスの150億円に上方修正します。
- また、経常利益も30億円プラスの150億円に、純利益は10億円プラスの70億円に修正します。

12

2013年度 通期見通し

SHISEIDO

(億円)	見 通 し	前 年 比	外 前 年 貨 比	4 / 2 6 公 表 差		
				上期	下期	年間
売 上 高	7,270	+7.3%	+1.0%	+170	±0	+170
国 内	3,760	+0.7%	+0.7%	±0	±0	±0
海 外	3,510	+15.3%	+1.2%	+170	±0	+170
営 業 利 益	390	+49.7%	—	+30	△20	+10
経 常 利 益	390	+37.3%	—	+30	△20	+10
特 別 損 益	△10	(△348)	—	±0	±0	±0
当期純利益	200	(△147)	—	+10	△10	±0

- 海外売上比率 48.3% (+3.4pp)
- 営業利益率 5.4% (+1.6pp)
- 為替レート ドル=90円(+13%)、ユーロ=120円(+17%)、
中国元=14.7円(+16%)

()内は前年実績

- 次に、「通期見通し」です。
売上高は、為替も含めて先行きが不透明であることから、現時点で下期は当初計画通りと置き、上期の増額分170億円を上乗せした、7,270億円・前年比+7.3%と見込みます。
国内は0.7%、海外は15.3%、現地通貨ベースで1.2%の増収となります。
- 営業利益は、上期からの費用の繰り下がりにより、下期は当初計画から20億円のマイナスとなりますが、年間では上期の為替変動10億円をプラスした390億円、経常利益も同様に390億円とします。
- 当期純利益は、税金費用等の変動を勘案し、200億円に据え置きます。

13

一瞬も一生も美しく

- なお、4月にご案内したコスト構造改革や事業構造改革などについては、それぞれ計画通りに推進しており、「店頭在庫」「不採算・低収益事業」の改善の検討も社内では着々と進めております。これらの取り組みについては、内容が確定した時点で、速やかにご案内させていただく予定です。

14

売上原価、販管費及び一般管理費

SHISEIDO

(億円)	14/3期 第1四半期			13/3期 第1四半期		増減 +:コスト減	前年比
		売上比	率差(+低下)		売上比		
売上原価	378	23.3%	Δ0.3%	344	23.0%	Δ34	+10.0%
販管費	1,177	72.5%	+6.5%	1,181	79.0%	+4	Δ0.4%
(国内)	625	76.3%	+7.9%	686	84.2%	+61	Δ8.8%
(海外)	552	68.6%	+4.3%	496	72.9%	Δ56	+11.4%
Mコスト	345	21.3%	+3.4%	369	24.7%	+24	Δ6.4%
人件費	438	27.0%	+1.8%	431	28.8%	Δ7	+1.6%
経費	372	22.9%	+1.1%	358	24.0%	Δ14	+3.8%
M&A関連コスト	21	1.3%	+0.2%	23	1.5%	+1	Δ5.0%

15

販管費 国内外内訳

SHISEIDO

(億円)		14/3期 第1四半期	13/3期 第1四半期	増減 +:コスト減	前年比
国	内	165	187	+22	Δ12.0%
	外	180	182	+1	Δ0.7%
M	コスト	345	369	+24	Δ6.4%
国	内	260	285	+24	Δ8.5%
	外	178	146	Δ31	+21.4%
人	件費	438	431	Δ7	+1.6%
国	内	199	213	+14	Δ6.5%
	外	173	145	Δ27	+18.9%
経	費	372	358	Δ14	+3.8%
国	内	0	0	±0	±0.0%
	外	21	22	+1	Δ5.1%
M & A 関連コスト		21	23	+1	Δ5.0%
国	内	625	686	+61	Δ8.8%
	外	552	496	Δ56	+11.4%
販管費合計		1,177	1,181	+4	Δ0.4%

16

営業利益 報告セグメント別

SHISEIDO

(億円)		14/3期 第1四半期	13/3期 第1四半期	前年差	前年比
国内化粧品	営業利益	71	17	+54	+322.0%
	利益率	9.4%	2.2%	+7.2ポイント	
グローバル	のれん等償却前 営業利益	10	△30	+39	—
	営業利益	△11	△52	+40	—
	利益率	△1.3%	△7.2%	+5.9ポイント	
その他	営業利益	5	4	+1	+17.5%
	利益率	15.3%	12.8%	+2.5ポイント	
全社・消去	営業利益	3	0	+3	—
合計	のれん等償却前 営業利益	90	△8	+98	—
	営業利益	69	△30	+99	—
	利益率	4.2%	△2.0%	+6.2ポイント	

17

貸借対照表

SHISEIDO

(億円)		13/6末	増減	(対13/3末)	
				為替除く	為替
流動資産	3,234	△92	△221	+129	
現金・有価証券	919	+7	△30	+37	
受取手形・売掛金	1,028	△154	△194	+40	
たな卸資産	912	+66	+24	+42	
固定資産	3,930	+101	△53	+154	
有形固定資産	1,298	+20	△14	+34	
無形固定資産	1,595	+88	△24	+112	
投資その他	1,037	△7	△14	+7	
資産計	7,165	+9	△274	+282	

(億円)		13/6末	増減	(対13/3末)	
				為替除く	為替
負債	3,992	△132	△209	+77	
支払手形・買掛金	437	+1	△9	+10	
未払金	344	△52	△54	+3	
賞与引当金	55	△70	△72	+2	
有利子負債	1,868	+21	+11	+10	
純資産	3,173	+141	△64	+205	
株主資本	3,154	△72	—	—	
その他包括利益	△158	+197	—	—	
少数株主持分	168	+16	—	—	
負債・純資産計	7,165	+9	△274	+282	

<使用為替レート>

(2013/6末): US\$94.0円、€120.7円、中国元15.1円

(2013/3末): US\$86.6円、€114.7円、中国元13.9円

(注)主要な勘定科目のみ

自己資本比率41.8%、有利子負債比率37.1%

18